

2025年3月11日

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

国際セミナー「Sea Level Rise and Climate Change Adaptation The Case of Hulhumalé and Migration Policies (海面上昇と気候変動適応：フルマーレの事例と移住政策)」

開催概要報告書

**開催地:** Crossroads Maldives (Malé, Maldives)

**開催日時:** 2025年2月19日 9時～12時半

**主催:** 公益財団法人笹川平和財団 (SPF)

**共催:** モルディブ国立大学(MNU)、Housing Development Corporation Limited (HDC)、公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団 (日本 GIF)

**参加人数:** 65名

---

## 1. 開会式

**司会者:** イーナス・アブドラ・ムーサ氏(MNU)

ムーサ氏は来賓、参加者を歓迎し、セミナーの意義としてモルディブおよび小島嶼開発途上国 (SIDS) の持続可能な解決策模索を強調した。

**来賓紹介:**

- 石神留美子氏 (駐モルディブ日本国大使)
  - アリ・シャリーフ氏 (モルディブ気候変動特使)
  - アーシャ・シェヘナズ・アダム氏 (モルディブ国立大学 副学長)
  - 松野文香氏 (笹川平和財団 社会イノベーションプログラムディレクター)
  - 中山幹康 (日本 GIF 理事長)
- 

## 2. 開会挨拶

**松野文香氏 (SPF)**

SPF の活動概要を紹介し、気候変動適応における国際的連携と地域社会重視の重要性を訴えた。

---

## 3. 大使挨拶

**石神留美子氏 (駐モルディブ日本国大使)**

日モ関係強化と沿岸保護事業への日本の貢献について説明。マレの防波堤事業の実績と今後の支援継続を再確認した。

---

## 4. 気候変動特使挨拶

## アリ・シャリーフ氏（モルディブ気候変動特使）

海面上昇の影響と、移住をコミュニティ強靱性向上の機会とする視点を提示。文化継承の課題と地域連携の重要性を強調した。

---

## 5. プレゼンテーション

### 5.1. 環礁国における気候変動適応オプション

#### 中山幹康（日本 GIF 理事長）

- 国内移住、国外移住、現地適応、浮体構造物の選択肢を比較。
- フルマーレの造成を効果的な現地適応の例とし、文化的配慮と物理的適応の両立を提案。

### 5.2. モルディブにおける気候変動適応戦略

#### イブラヒム・モハメド氏（MNU 環境・気候変動部門代表）

- モルディブにおける海岸侵食対策、防波堤建設、フルマーレ造成事業の進捗報告。
- 高齢者移住支援と持続可能なインフラの構築を提言。

### 5.3. フルマーレ住民の生活満足度と移住動機

#### アフメド・アスラム氏（HDC 代理最高商務責任者）

- 移住者 298 名を対象とした調査結果を共有。
- 手頃な住宅や公共サービスへのアクセスが移住を後押し。

### 5.4. 気候変動文脈におけるフルマーレへの自主的移住動機

#### 前川美湖氏（笹川平和財団上席研究員）

- 潜在的移住者の動機と懸念を分析。
  - 安全確保と生活向上が主要動機である一方、文化喪失への懸念が根強い。
- 

## 6. パネルディスカッション

### モデレーター：前川美湖氏

#### パネリスト：

- アリ・シャリーフ氏（モルディブ気候変動特使）
- イブラヒム・モハメド氏（モルディブ国立大学）
- アフメド・アスラム氏（モルディブ住宅開発公社）
- 中山幹康氏（日本 GIF）
- 高城元生氏（JICA モルディブ事務所支所長）

#### 主要議題：

- 移住と文化保存の両立
- 経済支援と住宅確保の重要性
- 環境配慮型インフラ整備
- 国際機関との連携強化

**結論:** 移住政策の立案には、文化的・経済的側面を包括した持続可能な取り組みが必要であるとの共通認識を確認。

---

## 7. 閉会挨拶

アーシャ・シェヘナズ・アダム氏 (モルディブ国立大学副学長)

参加者への謝意を示し、今後も学界・政府・国際パートナー間の連携を推進する必要性を訴えた。

---

## 8. 結論

本セミナーは、気候変動適応と移住に関する多角的視点と、モルディブにおける現地適応策の課題・可能性を浮き彫りにした。コミュニティ主体の取り組みと国際的連携が、今後の政策立案に不可欠である。

以上